

必要な情報を、必要なときに、必要な量だけ、必要な言語で提供するコミュニケーション技法でノーリフトケアの推進をサポートします

■ ノーリフトケア推進の課題

第10回ロボット介護機器開発パートナーシップ会合(2018/01/16, 01/19)
日本ノーリフト協会の活動 施設を選ぶ基準になるノーリフト～ロボット技術・ICTの必要性～ 発表資料より

7割が「していない」ーあなたの職場では、「ノーリフトケア（持ち上げない介護）」していますか？ | 介護ロボットONLINE (https://kaigorobot-online.com/news/30)より

福祉用具やR1を使ってケアを行おう！と言ってみても・・・

- 場所がない・リフトのスペースがない
- 時間がない・人数が足りない・非人間的である
- お金がない・値段が高い
- 活用方法が理解できない
- 手技・セッティングが面倒
- 家族が必要性を感しない
- 機械が受け入れられない
- 利用者が安全性が信用できない
- 本人の抵抗や不安

「取り入れていない」と答えた人のコメント

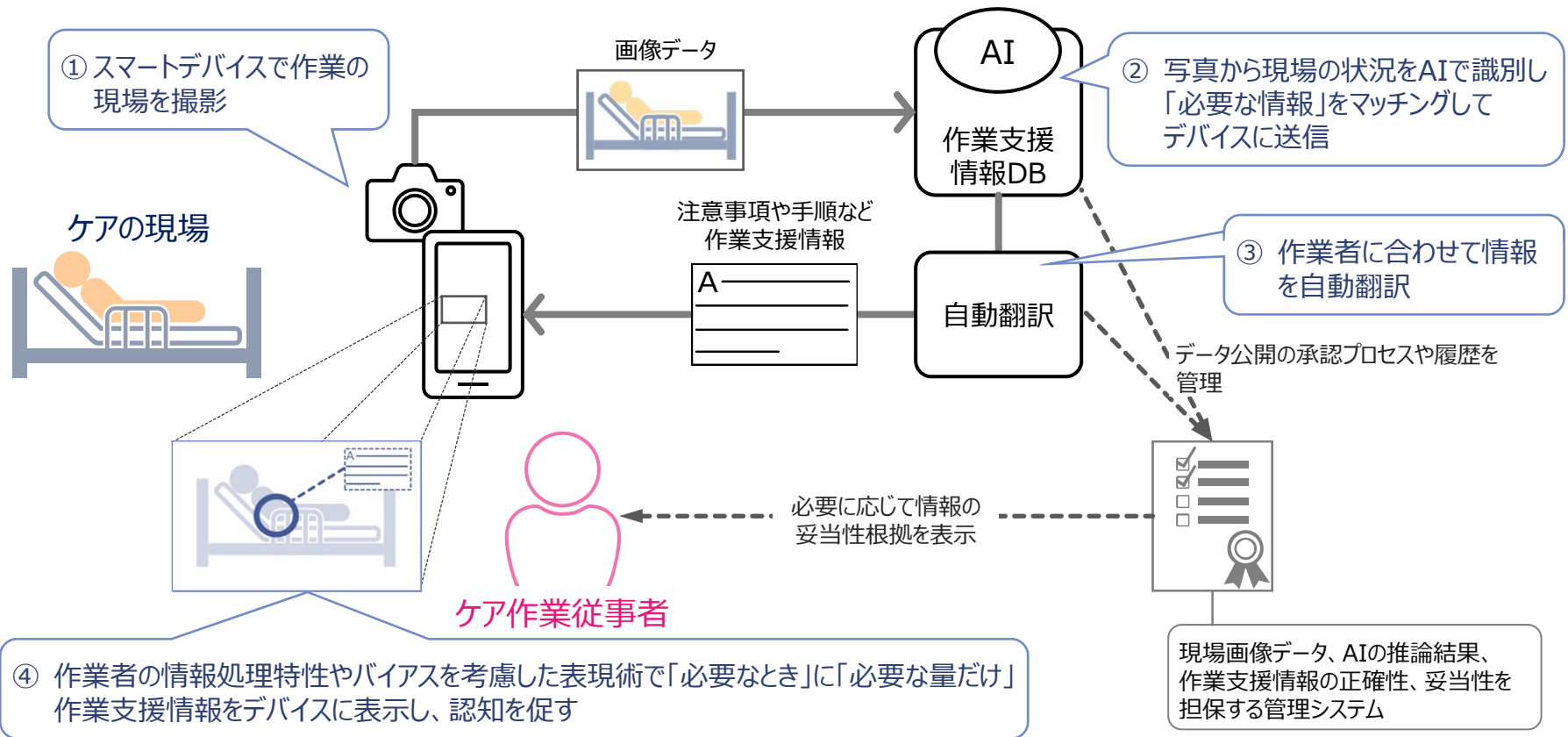
「取り入れていない」と答えた人の多くも、ノーリフトケアを取り入れたいと考えていることがコメントからわかります。しかし、人的リソースや費用の問題から、なかなか取り入れるのが難しいという現状があるようです。

- ノーリフトは、今後の介護の現場に必須だと思います。ただし、投入費用が切りすぎたり福祉機器の理解不足の現場が多い。在宅で利用出来るようになれば、自然に施設でも当たり前使用前に使用されるようになると思う。
- 介護者の腰痛予防だけでなく、利用者のADLの維持や恐怖心を与えない・拘縮を予防する…といった事を考えると「持ち上げない介護」をして欲しい。でも、人員不足の現状、仕事をこなすことに重きが置かれ、その方のペースに合わせた介護ができない悲しい現状があるのも事実。
- なかなか導入が難しい。機器を用意する手間がかかり、あっても使わない。



ノーリフトケアの普及には福祉用具の運用面の課題も多い

■ 提案：AR技術＋情報表現術で福祉用具の運用を支援



人に寄り添った情報の提示

作業記憶容量（以下WM）の違いと認知バイアスを考慮して「必要なとき」に「必要な量だけ」情報を提示する。

- ナッジ理論の利用 → 業務の妨げにならず、かつ見落としを防ぐような誘導的情報表示
- WMにあわせた情報表示 → 認識処理の違いを文字と図の表示順序や配置、関連性の明示で緩和

状況とのマッチング

適切な内容への絞り込みの実現には、現場の状況を識別・判定できることが必要である。画像認識やIoT機器からのデータ取得に基づき情報を抽出する機構を適用する。AIの利用を想定する。

評価と校閲を可能にする仕組み

正確性、適切性、有用性、適時性の評価、社会倫理に照らした校閲を可能にする。

ケア現場のトレーニングやリスクアセスメント、機器のUX改善にもご活用いただけます。